

障害福祉分野の ICT 導入モデル事業における導入事例

法人名	社会福祉法人 手をつなぐ高岡
事業所名	ワークスいちのせ、ワークスタから、アシストたての、ライフえいらく

1. ICT 機器の製品名

業務用パソコン 富士通 LIFEBOOK FMVAOD028P 5 台

内訳：ワークスいちのせ、アシストたての、ライフえいらく 各 1 台 ワークスタから 2 台

2. ICT 機器導入前の課題

- ・パソコンの絶対数が少なく（法人内 20 台）、職員のパソコンなど ICT 機器への習熟度が低い。
- ・利用者の状況等の記録などの日頃の作成資料の電子データ化が十分進んでいない。このため、資料作成等に時間がかかり、本来業務に専念できないことが懸念された。

3. ICT 機器導入の推進方法

- ・業務の ICT 化を進めるうえでの要となるパソコンへの習熟度を高め、次にタブレット等活用機器の範囲を増やし、使用する音声入力等の機能も拡大していきたい。
- ・法人内のパソコン配置台数が少ない事業所（例：ワークスいちのせ 職員 10 名にパソコン 2 台）に重点的にパソコンを配置した。職員の情報機器への習熟を進め、今後の業務の効率化を図る。

4. ICT 機器導入後の成果

① 業務効率化について

- ・パソコン導入により、利用者の支援記録等のデータを共有することにより職員間の情報整理、情報共有が進んだ。
- ・利用者の家族とのやりとりをメール等で効率的に行うことができ、意思疎通が円滑化した。

② 職員の負担軽減について

- ・コロナ禍のなか、オンラインによる会議や研修が不可欠になっているが、パソコンがあっても性能面で活用できないケースや他の用途と重なるケースがあるため、最低限の台数を確保でき、他の職員のパソコン使用が終わるまで待つことがなくなり助かっている。

5. 今後の課題

- ・業務の ICT 化の端緒としてパソコンを導入したが、今後、法人の重要な課題である個々の利用者に即したサービス提供、工賃アップ、BCP による災害対策、地域への情報発信等を行いたい。
- ・パソコンやタブレット等の ICT 機器の導入により、音声入力機能、工賃向上のためのプレゼン用資料作成など最新機能を使いこなし業務レベルを向上させたい。
- ・オンラインを活用した研修が主流となっており、職員の自主的、積極的な参加を支援したい。

6. 写真

